



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

CITATION:

天象. 天界 1931, 11(122): 311-313

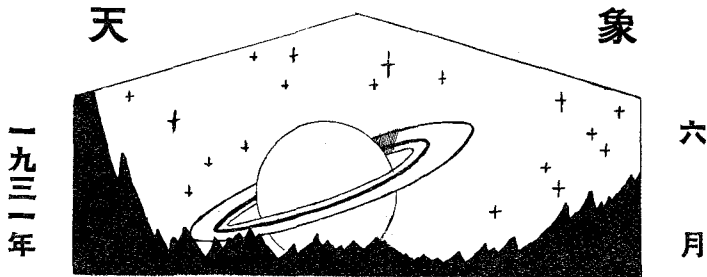
ISSUE DATE:

1931-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161668>

RIGHT:



太陽

日	赤 經	赤 緯	視直徑	星 座
(31)	4時27分56秒	北21度46分	31分37秒	う し
10	5時 9分 2秒	北22度56分	31分34秒	う し
20	5時50分33秒	北23度26分	31分32秒	う し
30	6時32分 6秒	北23度15分	31分31秒	ふ た ご

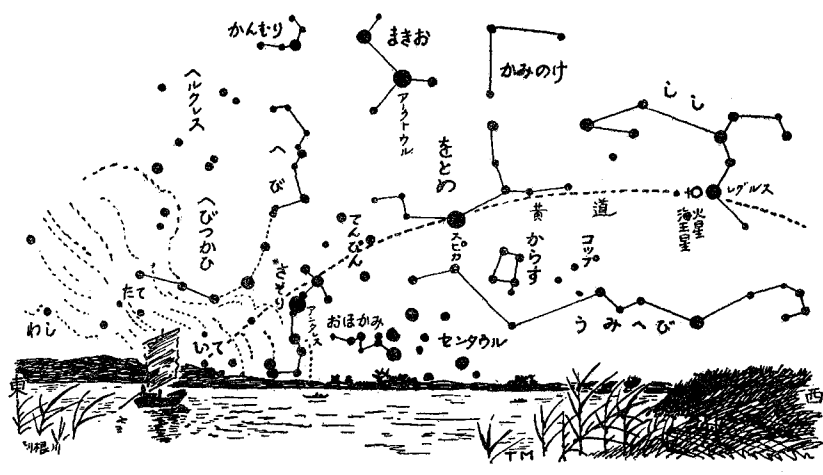
月始めは双子宮に在るが、二十二日から巨蟹宮に侵入する。又た此の日は夏至點を午後六時に通過する。即ち晝間が最も長く、京都に於ける日の出は四時四十三分、日の入は七時十四分。晝間の長さは十四時間三十二分、夜間は九時間二十八分。但し日の出の一番早いのは十五日で四時四十二分、日の入の遅いのは三十日で七時十五分である。出沒の方位は眞の東西より北側29度の所である。

月

月の相	時 刻	視直徑	星 座
下 弦	8日午後 3時18分	29分36秒	みづがめ
新 月	16日午後 0時 2分	31分20秒	う し
上 弦	23日午前 9時23分	32分19秒	を と め
満 月	30日午前 9時47分	30分58秒	い て
遠地點通過	9日午前 4時54分	29分34秒	う を
近地點通過	22日午前10時 0分	32分20秒	し し
昇交點通過	10日午後 7時18分	29分41秒	う を
降交點通過	24日午前 2時54分	32分16秒	を と め

月の出は、一日午後八時九分、十一日午前一時二十三分、二十一日午前九時五十分、七月一日午後八時三十八分。

月の入りは、一日午前四時四十二分、十一日午後二時二十八分、二十一日午後十一時二十一分、七月一日午前五時二分。



遊 星 界

水 星 月始めは暁の星として観望可能であるが、月半ば以後は見られない。月始めの位置は「ひつじ」の中央を順行中で、十日間に1度許り 東に運行する。光度零等、視直径7秒。二十九日に太陽と外合。

金 星 月始めは水星と並び、其の北側にあつて暫らく競走するが、水星の足の速いのにはかなわない。月始め 程観望にはよく、光度は負 3.3等を持続し、視直径は11秒から10秒半に減する。

火 星 宵の星で、僅かに西天に姿を見る丈となつた。位置はレグルス附近から「しし」の中央まで順行。光度1等半。視直径5秒。

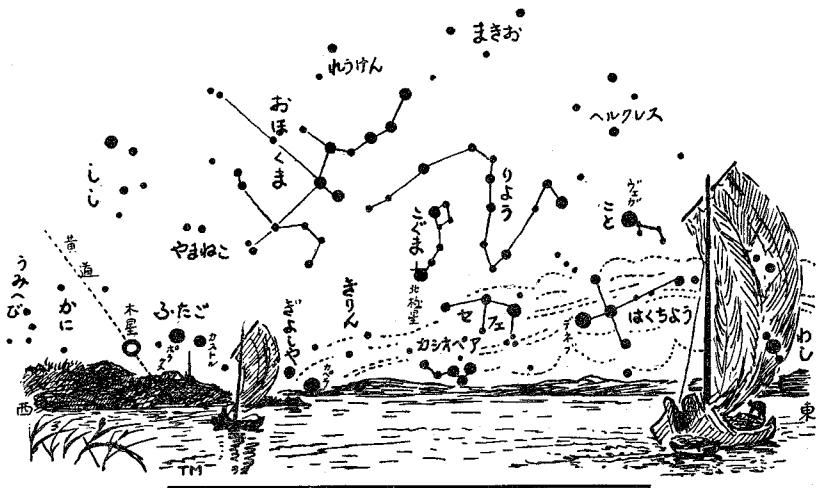
木 星 太陽に近く僅かに宵の西天に望み見るのみ。「ふたご」の東部を順行する。光度負1等半。視直径30秒。

土 星 そろそろ土星の時期となつて来た。位置は「いて」の中央稍東から逆行して居る。光度0等半。視直径16秒。環の長径41秒。短径16秒。

天 王 星 暁の東天に在り。「うを」座エータ星に近い。光度6等。視直径3秒。

海 王 星 宵の西天にあり。十六日午後十時火星と半度以内に並ぶ、光度8等。

冥 王 星 宵の星。「ふたご」座デルタ星の東を順行中。



恒 星 界

新緑に包まれて居た野や山も、次第に色濃くなり、
菜種の花も散つて、麥の穂がす、一寸と延びる頃、
み空の景色も亦た、春のころをも脱ぎ捨てゝ、
初夏のよそおひを凝らす様になつて來た。
果てしなく流れる利根川べりに立つて、
武藏平野に出沒する星をながめる船頭衆は、
たとへ星座を知らずとも、春に見馴れた星の姿が、
次第に西へ移つて行くのに、氣が付くであらう。
銀河は西に低く横はつて、「カシオペヤ」「セフエ」は地に近く、
北斗七星は高くかゝつて、天頂には「かみのけ」「まきを」
「れうけん」「かんむり」等が座を占め、「ふたご」は既に沒して、
「しし」もその後を追ひ、「うみへび」は南に長く横はる。
七夕で知られた牽牛織女は、既に東に登つて、
圖では牽牛は丁度、大きな帆の後ろに見えてゐる。
夏の代表の「さそり」も東の地平線に現はれて、
初夏である事是一目見た丈けでも知られる。